

角度持って上下および深部に進行し、最後に延性的な力により破断したと思われる。

〔文 献〕

1. 久保田 稔, 中嶋和郎, 小原雅彦, 小山田勇樹: 根管拡大器具の破損状態; 歯界展望 (臨時増刊号), 71(3), 823, 1988
2. 久保田 稔, 中嶋和郎, 小原雅彦: 根管拡大器具の破損状態—その1 破壊されたエンジン用リーマーのマクロ的観察—; 日歯保誌, 31(1), 241, 1988
3. 久保田 稔, 中嶋和郎, 寺田林太郎: 根管拡大器具の破損状態—その2 破棄されたエンジン用リーマーのミクロ的観察—; 日歯保誌, 32(2), 投稿中

演題3. 口腔外科領域に於けるレーザー手術の臨床経験と問題点

○大屋 高德, 小早川 隆文, 福田 喜安
藤岡 幸雄

岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座

近年各種レーザーが医学領域において臨床応用され、私ども口腔外科領域の臨床例として、良性腫瘍、悪性腫瘍の治療法の一つに適応を選んでレーザー手術を実施してきた。レーザー外科では炭酸ガスレーザー、アルゴンレーザー、Nd-YAG レーザーの3種があるが、私どもが使用した炭酸ガスレーザーとNd-YAG レーザーには、各々の特徴がありその適応には充分に考慮して選択し治療すべきであると考えられた。

一般にレーザー手術の利点としては、出血が少なく創部の治療が秀れていることや、粘膜炎、顎骨壊死などの副作用が少なく、二次治療の支障とならない点が上げられる。私どもは昭和59年から63年までの5年間に12例のレーザー手術を経験した。即ち、血管腫4例(舌2例, 口唇2例), 乳頭腫2例(舌), リンパ管腫1例(舌), 白板症2例(舌)さらに悪性腫瘍として舌癌2例, 黒色腫1例(頬・下唇粘膜)である。これらレーザーの適応例として、CO₂レーザー手術例には、リンパ管腫, 乳頭腫, 黒色腫, 白板症に使用し、YAG レーザーでは血管腫と舌癌に適応した。一般にCO₂レーザーの特徴として、細胞の気化、蒸散に優れていて、早い組織破壊効果を見る。そして切開能が非常に優れている点が上げられる。一方、YAG レーザーは、操作性に優れ、良好な血液凝固と効果的な止血がはかられる。そしてレ

ザーの組織深達性と拡散性が大きいという特徴を備えている。以上、私どものレーザー手術の臨床施行例において口腔外科領域では次のことがまとめられた。

すなわちレーザー手術は、術中の出血が少なく術後創に生じる癬痕がきわめて少なかった。また比較的限局性で小範囲(約2cm未滿)の良性腫瘍にはレーザー手術は非常に効果的であったが、舌癌手術においては、CO₂とYAGの両方を使用しながら手術をした方が良い結果が得られると考えられた。また、腫瘍が大きく深在性のものに対し、レーザー手術にも限界があり、その特性を生かしながら各種治療法と合せて適応すべきであると考えられた。

演題4. 楽器吹奏に起因する急性歯科疾患の一例

○中野 久士, 古跡 由紀子, 桜田 光男,
松丸 健三郎, 上野 和之

岩手医科大学歯学部歯科保存学第二講座

疼痛を伴う歯科疾患の中には、その原因が明らかにしにくい例が多くみられる。今回、歯周病変由来か、歯内病変由来のものかの鑑別が難しく、楽器の吹奏が原因と思われる症例に遭遇した。患者は、14歳の女子中学生であり、13周囲の歯肉と歯の持続的な激しい自発痛を主訴として本学を受診し、慢性歯周炎の急性化を疑われ、第二保存科に紹介された。当初、激痛のため明確な歯髓診断はできず、X線写真でも辺縁性の歯槽骨吸収や根尖性病変を示唆する透過像は認められなかった。この為、膿瘍切開のみに留めたが改善せず、その後の歯髓診断で生活反応がみられなくなり始めて12の急性根尖性歯周炎と診断できた。通法による根管処置及び消炎処置により、症状の著しい改善を認めた。既往歴には特にのべる事項はみられなかった。患者は昨年よりクラリネットの吹奏を頻繁に行っており、咬耗も見られたことから、患歯部で特に強く接触させていたようである。持続的な楽器の吹奏が慢性刺激として長期にわたり下顎前歯部に作用して、歯髓に血行障害をおこし歯髓が壊死し、ひきつづき急性症状を起こしたのか、又は摩擦や亀裂を引き起こし、露出した象牙細管からの感染の可能性も疑われた。いずれにせよ診断が非常に困難であり、現病歴と口腔内診査、特に楽器吹奏者に対しては楽器吹奏が不正咬合と関連性があることから一般的診査の他に歯列状態等